（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令 和 ８年 度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 県立特別支援学校坂戸ろう学園 ）

目指す学校像	多様な社会の中でたくましく生きるための力を育む、地域から信頼される学校

重　点　目　標	1　「学びの力を生きる力へ」の実現に向けた授業実践を積み上げる。 2　ろう・難聴理解、手話の普及啓発活動を行い、地域とのつながりを深めるとともに本校の魅力を発信する。 3　心身の健康を維持した働き方改革と大規模改修工事に係る安心安全な教育活動を実現する。

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

1　授業改善
2　開かれた学校づくり
3・4　その他

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者　学校関係者　　名
　　生徒　　名
　　事務局(教職員)　　名

※　デフフッドの視点：ろう者である自分自身をありのままで探求し、ろう文化を学んでいく

学　校　自　己　評　価								学　校　関　係　者　評　価
年　度　目　標					年 度 評 価 （ 2月1日 現在 ）			実施日　令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	・自己評価シートの達成度がすべてＡということは通常なく、評価指数を設定して達成度を図る方法も考えられる。 ・単年度の目標の達成度を評価するだけではなく、継続的な教育活動、授業実践に取り組み、長期的な視点で評価を行う。	①関東地区聾教育研究会定例研究会（令和９年度実施）に向けた学校研究テーマ「学びの力を生きる力へ」に沿った研究研修	①学校研究テーマ「学びの力を生きる力へ」、各学部のテーマに研究を深め、指導助言者の指導を仰ぎ、授業改善、指導力向上につなげる。 ①令和８年度関東地区聾教育研究会定例研究会前年度研究会を開催し、講演、情報交換を通じて研究を深める。	①学校研究テーマ「学びの力を生きる力へ」、各学部のテーマに研究を深め、指導助言者の指導を仰ぎ、授業改善、指導力向上につなげることができたか。 ①令和８年度関東地区聾教育研究会定例研究会前年度研究会を開催し、講演、情報交換を通じて研究を深めることができたか。				
2	・昨年度のデフリンピックに関する取組は高評価であり充実した取組となった。デフリンピック後の取組を考える必要がある。地域とのつながりを再考する必要がある。 ・デフリンピックの取組をとおして発信することの重要性を感じた。本校の職員に選手がいたことは子どもたちにとっても、坂戸市や聴覚障害者協会にとっても追い風となりよかった。 ・児童生徒数が減っていることを危惧している。学校のＰＲを積極的に行う必要がある。卒業生が動いてくれる環境づくりも大切である。	①坂戸市障害者福祉課、自治会、企業等との連携による手話普及活動の実施及び共生社会への取組 ②創立７０周年記念行事等の実施及び学校の魅力の発信	①寄宿舎の太鼓発表やブルーライトアップイベント、進路関係のコエドテラス手話カフェへの参加を通じて交流を深め、手話や共生の大切さを伝える。 ②全体会（創立７０周年記念行事）では、校歌の作成者によるビデオメッセージや卒業生からのメッセージを視聴し、学校への愛着を深める。また、運動会・体育祭や文化祭においても、創立７０周年を意識した取組を取り入れる。	①寄宿舎の太鼓発表など地域でのイベントを通じて、交流を深め、手話や共生の大切さを伝えることができたか。 ②校歌の作成者によるビデオメッセージや卒業生からのメッセージを視聴する活動を通して、児童生徒が学校の歴史や伝統への理解を深め、学校への愛着を高めることができたか。 ②運動会・体育祭、文化祭などの学校行事において、創立７０周年を意識した取組を取り入れ、児童生徒が周年行事の意義を実感しながら主体的に参加する姿が見られたか。				
3	・保護者アンケートの回収率があがっていない。アンケートの実施方法を見直し回収率を上げる必要がある。 ・職員の働き方改革が定着してきた。業務の改善を安定してものとしたい。 ・不祥事防止の意識が定着してきた。さらに不祥事の根絶を目指す取組を継続する。 ・本年度、中高棟の工事が行われる。生徒の安全を確保し、活動場所、動線に配慮し教育活動の工夫が必要である。	①心身の健康を維持する職員組織の構築と働き方改革の継続及び不祥事の根絶 ②中高棟大規模改修工事（４月～１１月）に伴う安全確保と教育活動の柔軟な対応	①心身の健康を維持するため、時間外在校時間を月４５時間以内に収めていく。 ①不祥事の根絶に取り組むため、年５回のミニ研修を実施し、継続的な啓発を図る。 ②事務室と学部間のコミュニケーションを円滑に行い、情報共有、共通理解を図る。 ②保護者に適切に情報提供を行い、理解協力を促し、事故防止を徹底する。	①心身の健康を維持するため、時間外在校時間を月４５時間以内を達成することができたか。 ①不祥事の根絶に向けて年５回のミニ研修を実施し、継続的な啓発を図ることができたか。 ②事務室と学部間のコミュニケーションを円滑に行い、情報共有、共通理解を図ることができたか。 ②保護者に適切に情報提供を行い、理解協力を促し、事故防止を徹底することができたか。				